

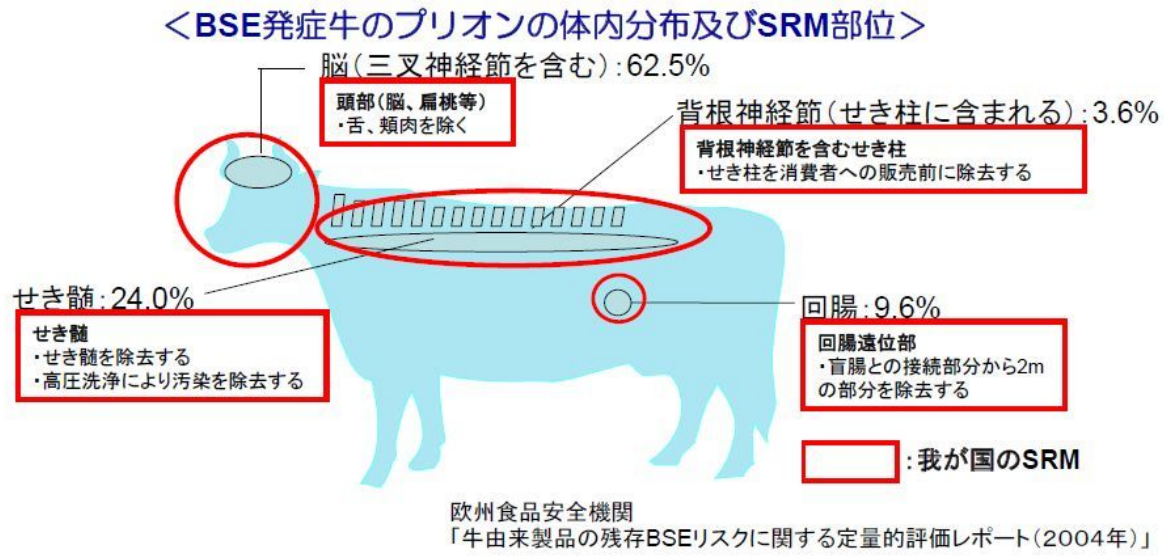
Q2 牛肉は食べても安全というのはどういう理由からですか。

BSEはBSEプリオンが増加し、主に脳に蓄積することにより、脳の組織がスポンジ状になる病気です。BSE感染牛におけるこのBSEプリオンの体内分布をその量によって比較すると、下図のようになっています※1,2。

日本においては、このBSEプリオンが分布する組織を特定部位〔脳、眼を含む牛の頭部（舌及び頬肉を除く。）、せき髄及び回腸遠位部〕はBSE感染の有無を問わず全ての月齢の牛を対象として除去・焼却しています。また、全ての牛のせき柱についても、除去し、食品や飼料・肥料の原料に用いることができません。

牛肉については、英国でBSE感染牛の筋肉をマウスの脳内へ接種した実験でも感染性は認められておらず、安全とされています。

BSE感染牛のBSEプリオンの体内分布
(図示部位中のBSEプリオンの分布割合の合計：99.7%)



※1 羊のスクレイパーの実験に基づいて、脾臓(0.3%)に低レベルの感染性があると推測されています。なお、経口でBSE感染した牛の場合、脾臓に感染性はみつかりません。

※2 扁桃については、BSE感染牛の扁桃を牛の脳に接種した実験で、わずかな感染性が確認されています。